

ActiveImageTM 3.5

アクティブ イメージ プロテクター **PROTECTOR**

Virtual Editionのご紹介

(株) ネットジャパン 法人営業部

2014年5月30日

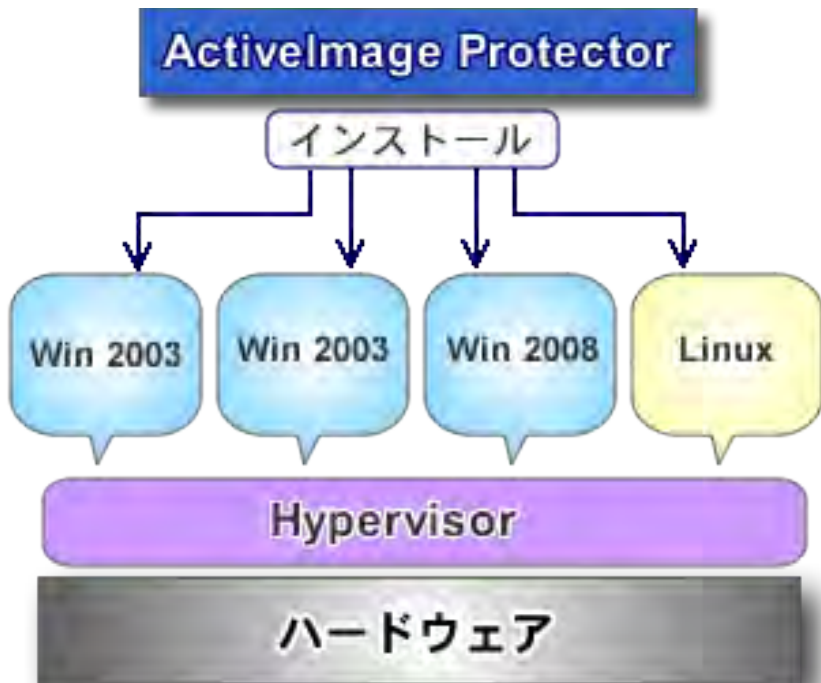
目次

- [基本コンセプト・・・ P.3](#)
- バックアップ機能
 - [ホットバックアップ・・・ P.6](#)
 - [VMware ESXi 5のコールドバックアップ・・・ P.7](#)
 - [ESXiホストのコールド状態でのバックアップ圧縮効果・・・ P.8](#)
- 復元機能
 - [ディザスタリカバリー用起動環境・・・ P.9](#)
- [仮想環境移行機能（P2V）・・・ P.11](#)
- 物理環境移行機能（V2P / P2P）
 - [AIR機能（Architecture Intelligent Restore）・・・ P.12](#)
- [各エディションの特長・・・ P.13](#)
- 仮想環境用ActiveImage Protector
 - [Virtual Edition とfor Hyper-Vとの違い・・・ P.14](#)

基本コンセプト

Virtual Editionは、次の3つのエディションで構成されます。

- ActiveImage Protector 3.5 Server Edition (SP4)
- ActiveImage Protector 3.5 Desktop Edition (SP4)
- ActiveImage Protector 4.1 Linux Edition

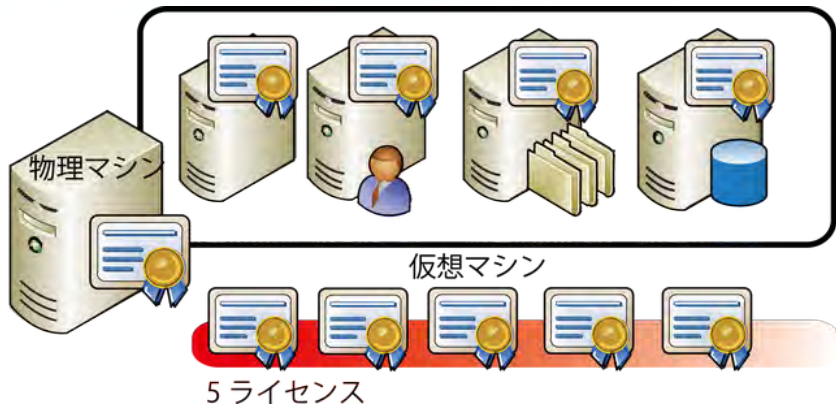


- ➡ 仮想マシン個々にActiveImage Protectorをインストールし、バックアップ
- ➡ バックアップ対象仮想マシンは Windows Server / DesktopとLinux Server
- ➡ 対応ハイパーバイザーは Windows Server 2008 R2 / 2012 / 2012 R2 Hyper-V、VMware vSphere ESX 3.5 / 4.0 / 4.1 / 5.0 / 5.1 / 5.5
- ➡ 仮想環境が構築された物理マシン1台ごとに1ライセンス。バックアップ・復元対象の仮想OSの数量には制限なし

ActiveImageTM 3.5 Virtual Edition

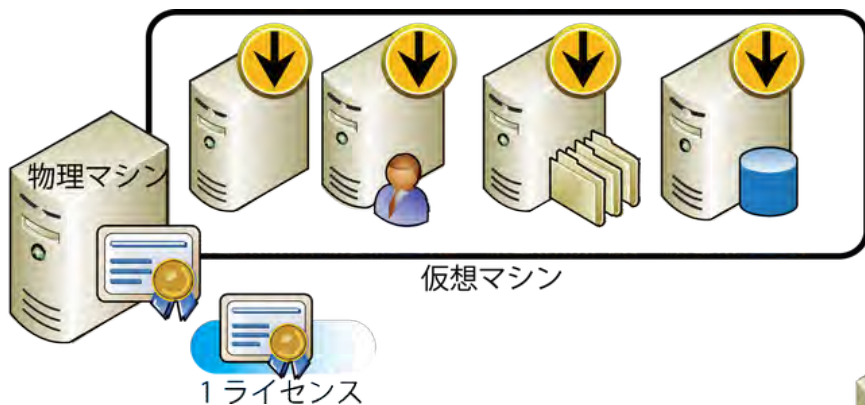
アクティブ イメージ プロテクター PROTECTOR

基本コンセプト (続き)

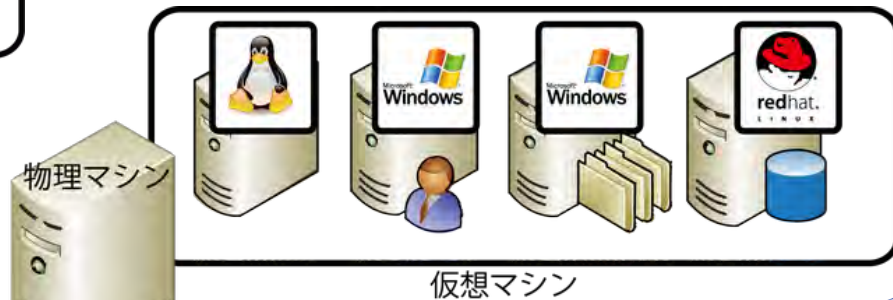


Server / Desktop / Linux Edition の場合は、物理、仮想それぞれにライセンスが必要です。

Virtual Editionなら



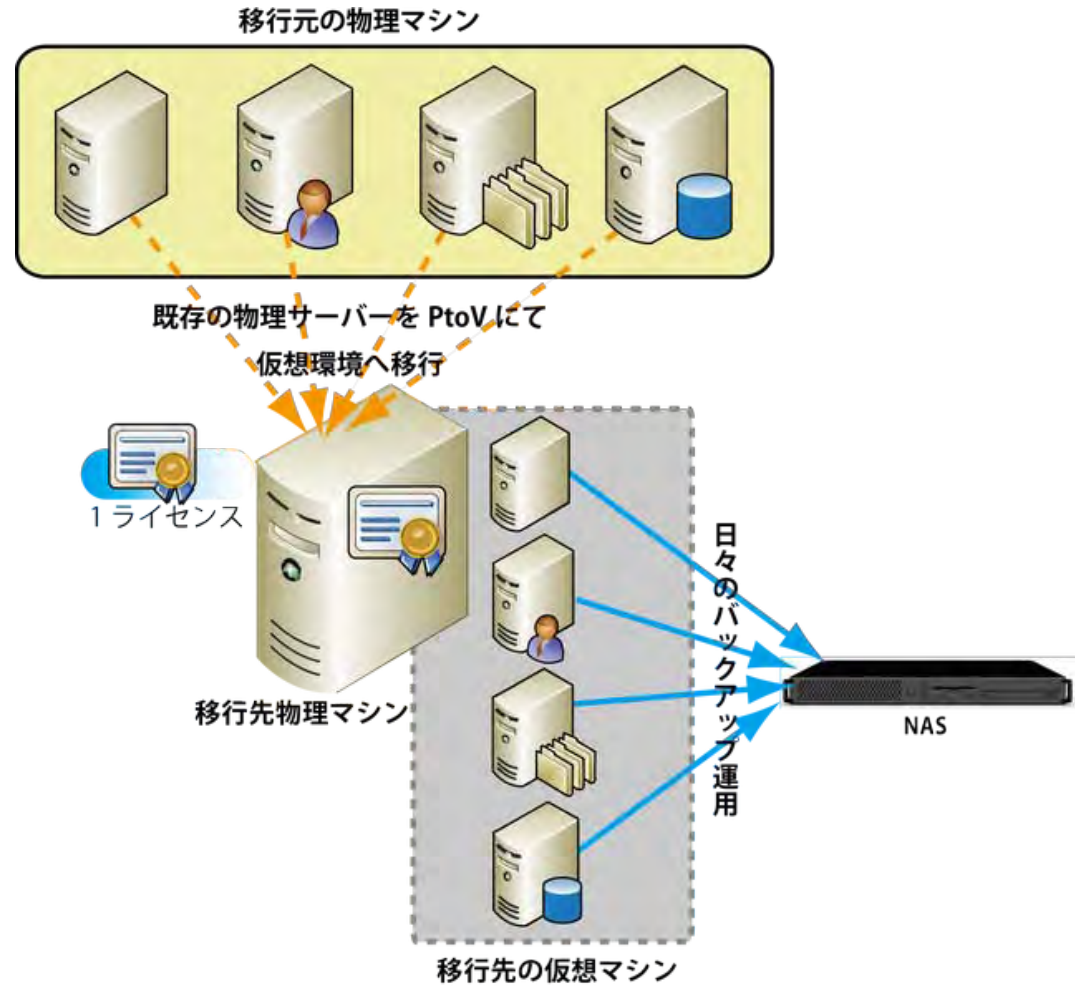
1 ライセンスで、仮想OSの種類と数に関係なく使用できます。しかも、Windows Server / Desktop / Linuxに対応



基本コンセプト（続き）

異なる複数の物理マシンを集約して、仮想化する場合、移行元で一時的にイメージ作成をする時でも、移行先の物理マシンの1ライセンスのみで可能です。また、仮想化環境の日々のバックアップも、同じライセンスを使用できます。

移行作業後も、移行元の物理マシンでActiveImage Protectorを使用する場合は、別途ActiveImage Protectorのライセンスをご購入ください。

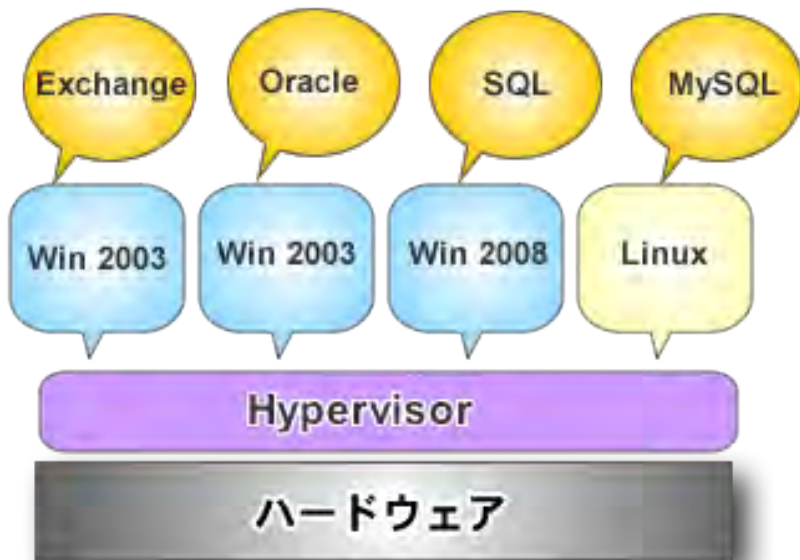


バックアップ機能

ホットバックアップ

- Windows仮想マシン上のSQL / Exchange / Oracle等のVSS対応アプリを停止することなく、整合性の取れたバックアップ
- Linux仮想マシン上のMySQL / サイボウズ ガルーンを停止することなく、整合性の取れたバックアップ

ActiveImage Protector



オンザフライで
重複排除、圧縮
バックアップ

Exchange
Win 2003
バックアップ

Oracle
Win 2003
バックアップ

SQL
Win 2008
バックアップ

MySQL
Linux
バックアップ



バックアップ機能（続き）

VMware ESXi 5のコールドバックアップ

- VMFSをスマートセクター・コールドバックアップ
 - ➡ VMFSの実使用領域をコールドバックアップ
 - ➡ 重複排除圧縮も有効



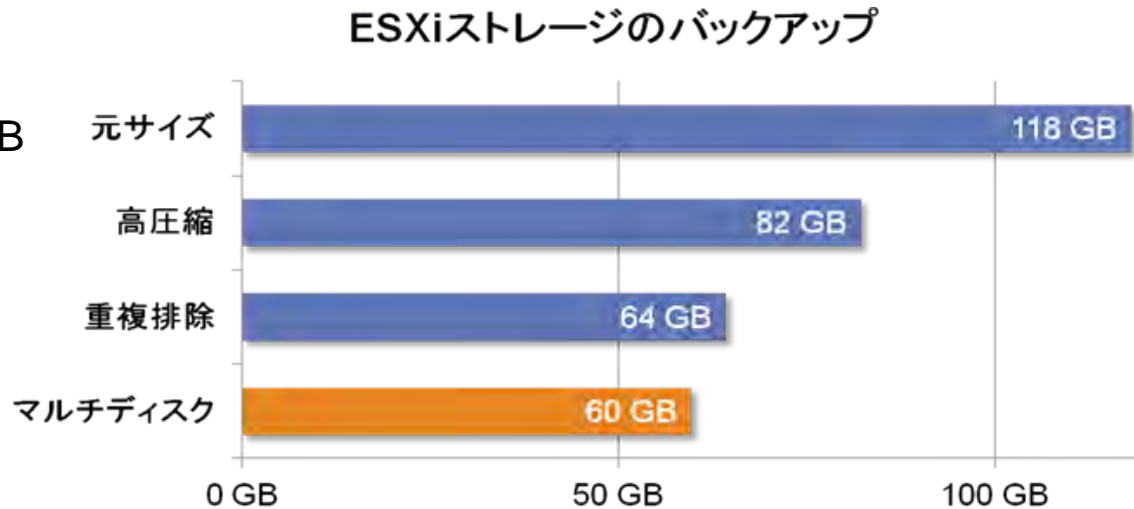
大量の仮想マシンを構築した初期状態の
データストアとシステムも
最小容量でバックアップが可能

バックアップ機能（続き）

ESXiホストのコールド状態でのバックアップ圧縮効果

以下の設定で計測

- ESXi ストレージ 使用済み 118GB
- 仮想マシン10台



元のサイズから **49%** の圧縮

プロセッサ: AMD PhenomTM 2 x4 960T Processor 3.00GHz

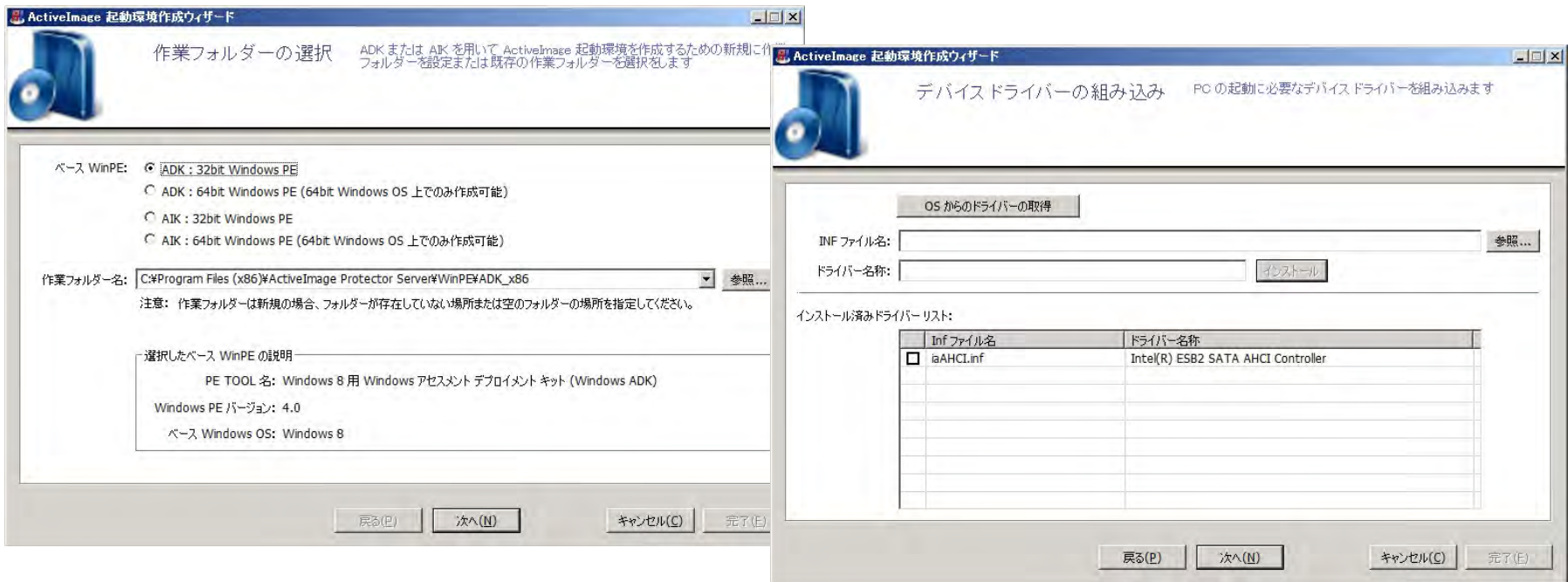
ハードディスク: ESX / データストア (118.10GB使用済)

仮想マシン: 10台 (Windows 2008 R2×2, Windows 7 ×5, Windows 2003 R2×3)

復元機能

ディザスタリカバリー用起動環境

- Windows PEベースの起動環境を作成
- 実装されていないデバイスドライバー環境でも、使用しているデバイスドライバーを選択して、起動ディスクを作成



起動環境作成ウィザードの操作画面

復元環境

ディザスタリカバリー用起動環境（続き）

高速で簡単な ファイル単位のリカバリー

イメージファイルを選択して
マウント

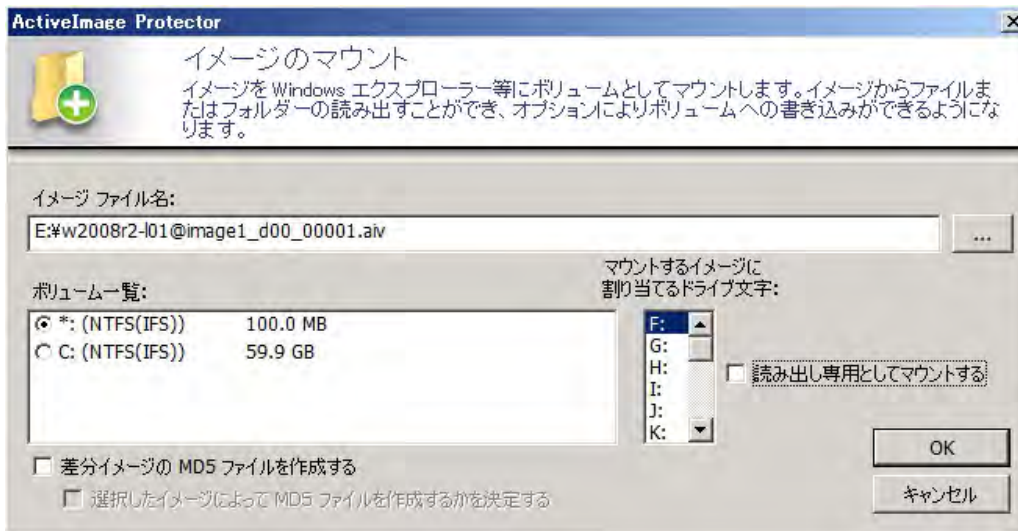
ファイルを復元

高速で簡単な ディザスタリカバリー

復元用製品CDを起動し
イメージファイルを選択

復元しPCを再起動

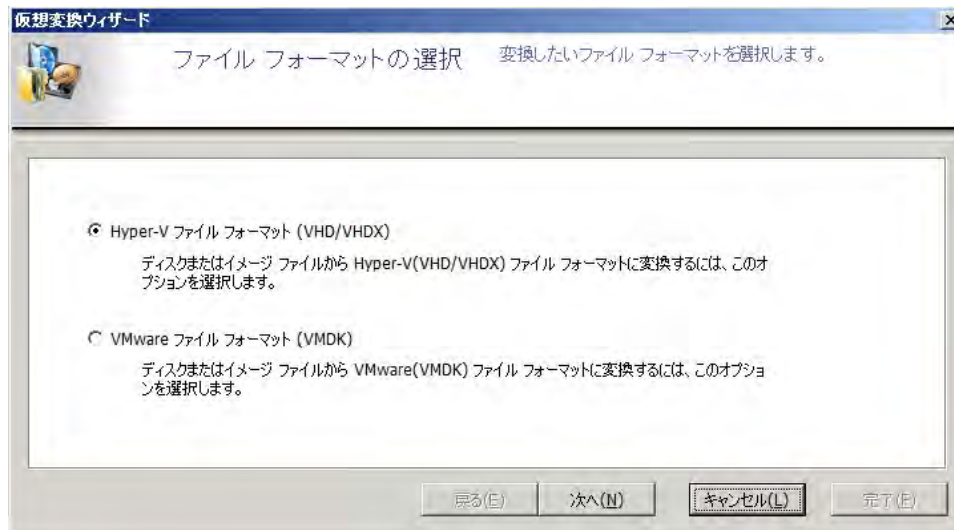
本番稼動



仮想環境移行機能 (P2V)

- 取得したイメージファイルからVMDK、VHDファイルへの変換
- 仮想ドライバーの組み込み

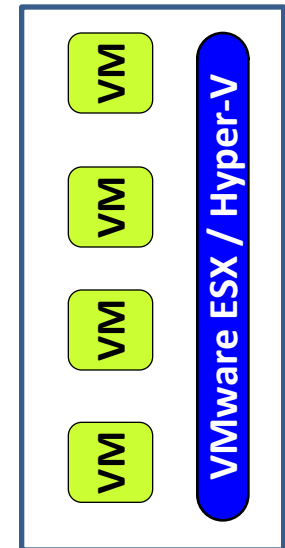
ActiveImage Protector
P2V操作画面



物理サーバー



移行先の仮想サーバー



物理環境移行機能 (V2P / P2P)

AIR機能 (Architecture Intelligent Restore)

- ActiveImage ProtectorのV2P / P2P機能
- 通常の復元のプロセスでAIR (ハードウェアに依存しない復元) を選択して、移行先のドライバーを組み込み、異なるハードウェアに復元

The screenshot displays the 'Image Recovery Wizard' window with the '復元の設定' (Restore Settings) tab selected. The '高度なオプション' (Advanced Options) section is expanded, showing the 'AIR (ハードウェアに依存しない復元)' (AIR (Hardware-independent restore)) option checked. Below this, the 'AIR (ハードウェアに依存しない復元)' (AIR (Hardware-independent restore)) section provides instructions: '復元処理中に必要なドライバーを追加することによって、ハードウェアに依存しない復元を可能にします。' (By adding the necessary drivers during the restore process, hardware-independent restore becomes possible.)

The 'Architecture Intelligent Restore (AIR)' dialog box is overlaid on the wizard. It contains the following information:

変換パラメータ			
対象ドライブ	OS	OS種別	HALの上書き
E:	Win2003Server	32-bit	0

Below the table, the 'RAIDドライバー' (RAID Driver) section is visible, with the checkbox 'RAIDまたはAHCIドライバーが必須' (RAID or AHCI driver is required) checked. A text box for the 'RAIDまたはAHCIドライバーのINFファイル' (RAID or AHCI driver INF file) is present, with a '参照' (Reference) button next to it.

Buttons for '戻る(E)' (Back), '次へ(N)' (Next), 'キャンセル(L)' (Cancel), 'OK', and 'キャンセル' (Cancel) are visible at the bottom of the dialog.

各エディションの特長

詳細は各エディションの機能説明をご参照ください。

Server / Desktop Edition

- 重複排除圧縮機能 – バックアップイメージ作成時にリアルタイムかつオンラインで重複排除し、圧縮
- マルチディスクイメージファイル機能
- WebDAVに対応したオフサイトレプリケーション機能（遠隔地データ保存機能）
- VMware ESXi 5のコールドバックアップ対応
- Windows Server 2012 R2/ Windows 8.1に対応（SP4以降）
- スマートセクター技術による高速なバックアップ
- Hyper-VとvSphere上で稼働中の仮想OS毎にActiveImage Protectorをインストールし、バックアップ
- 静止中のWindowsサーバー全体をバックアップ

Linux Edition

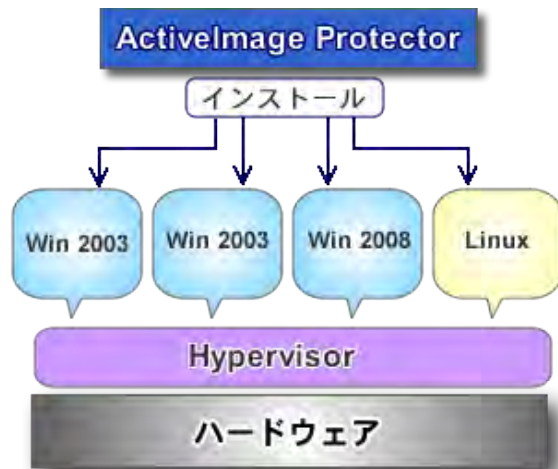
- Linuxネイティブのスナップショットドライバーを採用
- Linuxのホット/コールドイメージングのバックアップ
- 独自開発のトラッキングドライバーによる増分バックアップ
- MySQLデータベースのオンラインバックアップに対応
- サイボウズ ガルーン 3のオンラインバックアップに対応
- Red Hat Enterprise LinuxやCentOSなどLinuxの多数のディストリビューションに対応

仮想環境用 ActiveImage Protector

Virtual Edition と for Hyper-V(Enterprise/SHR) との違い

Virtual Edition

物理マシン1台 仮想OS複数



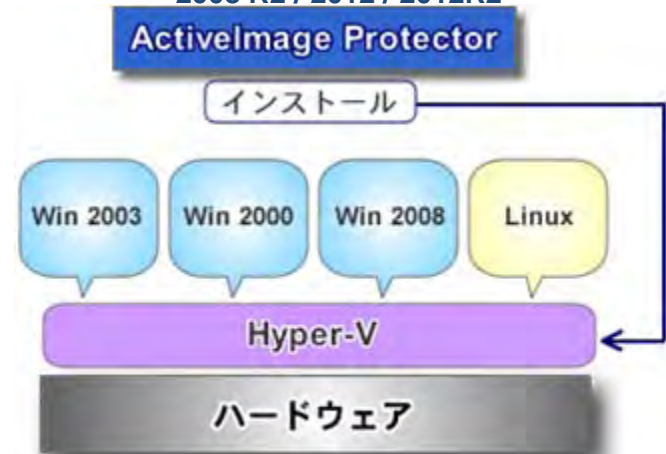
- ActiveImage Protector Virtual Edition は ActiveImage Protector Server / Desktop / Linux Edition で構成されます。
- バックアップ対象となる仮想マシン個々にインストールが必要です。
- Cluster Shared Volume (CSV) 上の仮想マシンを停止することなくバックアップをすることができます。

対応ハイパーバイザー：

- Windows Server 2008 R2 / 2012 / 2012 R2 Hyper-V (ホット&コールドイメージング)
- VMware vSphere ESX 3.5 / 4.0 / 4.1 / 5.0 / 5.1 / 5.5 (コールドイメージング)

for Hyper-V(Enterprise/SHR)

Hyper-Vホストとして構成されたWindows Server 2008 R2 / 2012 / 2012R2



- Windows Server 2008 R2 / 2012 / 2012 R2にインストールします。
- 個々の仮想マシンにActiveImage Protectorをインストールする必要がなく、仮想マシンを含む全体をバックアップ。ReZoom/SHR機能により仮想マシンを個々に復元することができます。
- Cluster Shared Volume (CSV) 上の仮想マシンをシャットダウンせずに、一括で高速にバックアップが可能です。(Enterpriseを2012上で使用した場合)

対応ハイパーバイザー：

- Windows Server 2008 R2 / 2012 / 2012 R2 Hyper-V (ホット&コールドイメージング)

ActiveImage Protectorの詳しい情報は、
専用サイトへどうぞ！

<http://www.netjapan.com/jp>

お問合せ先
株式会社ネットジャパン
法人営業部
E-Mail:corporate@netjapan.co.jp
TEL:03-5256-0877